私は 2006 年、56 歳のときに起業し、2007 年 8 月に認知症の方をはじめ介護が必要とされる方々にサービスを提供する「2 人 3 脚」を立ち上げました。「2 人 3 脚」では「小規模多機能型居宅介護」と「グループホーム」の二つを柱に、利用者の方やご家族に寄り添う介護を目指しています。

小規模多機能型居宅介護は 1 ヵ月 25 名までの登録制で、1 日 15 名までの「通い」を中心に、9 名までの「泊まり」、訪問介護などを組み合わせたサービスです。通常のデイサービスでは、9 時頃から 16 時頃までのサービスになることが多いのですが、ここではご本人やご家族の希望に応じ、24 時間 365 日のサービスを提供しています。夕飯を食べて 20 時頃に帰られる方もいらっしゃいますし、朝早くからいらっしゃる方もいます。ご家族のお仕事の都合に合わせて時間を組むこともちろん可能です。

グループホームは認知症と診断された方に対するサービスで、介護職員と 9 名の入居者の方が共同生活を送っています。入浴、排泄、食事などの日常生活のお世話や機能訓練を行うほか、調理や掃除、洗濯などの作業はスタッフと共同で行います。包丁で野菜を切ったりする作業は生活リハビリと言って、普段は使わない筋肉を動かしたり脳を活性化する効果もあるんです。顔馴染みのスタッフとともにそれらの作業を行い、家庭的な雰囲気の中で一日を過ごしていただいています。

「2 人 3 脚」の利用者は 28 名ほど。それに対してスタッフは 31 名います。多くても一人のスタッフが 3 人の利用者をケアすればいい態勢を整えているのですが、これが私が以前から望んでいた介護の形なんです。私は、看護師としてこれまで多くの認知症の方々の治療に関わってきました。ですが、患者さん一人ひとりとじっくり向き合い、私が考える最高の看護を行うことは現実的に難しく、長い間ジレンマを抱えていました。病院で仕事をする上で、56 歳という年齢に対する評価は決して高くはないことを